

県議会農林水産委員会が「みやこ型住宅」を調査

- 宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会と意見交換 -

去る9月11日岩手県議会農林水産委員会のメンバーが、地域材をふんだんに利用した「みやこ型住宅」の調査のため、当管内を訪れました。

当日は、宮古市内の「みやこ型住宅」(平成18年建築)を現地調査した後、当住宅を推進する「宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会」(甲斐谷部会長ほか)や宮古市林業課(野内課長)などが出席し、合庁会議室にて委員との意見交換が行われた。



「みやこ型」住宅は、地域材を8割以上、かつ10m³以上使用するなどの認定基準があり、平成16年度からこれまで

に27棟認定されています。

意見交換会では、宮古市から、地域材を利用した住宅への補助制度(1棟当たり30万円)の紹介があり、住宅建築は地域への波及効果が大きく、林業振興のみならず、関連産業全体の振興が目的との説明がありました。

また、

地域材のストックが難しい住宅への補助制度は「年度内完成」がネック

木材を「現し」とする際、

「割れ」への理解が必要

このままでは職人が不在に今後「アカマツをふんだんに使った住宅」を推進

大手プレハブメーカーの住宅は地域材利用に繋がらない

地域材利用住宅への補助制度の復活を県に要望

など、意見交換が活発に行われ、予定時間を15分オーバーし終了しました。